



No.35

げんきカエル



こども病院ニュースレター

小児の臓器提供について

小児救急医療センター長 上谷 良行

平成22年7月に改正臓器移植法が施行され、家族の意思で小児においても脳死下臓器提供が可能となりました。わが国においては小児からの臓器提供が認められていなかったことより、移植でしか助からない病気を持ったこどもたちが海外に渡って移植を受けることがありましたが、もともと提供者の少ないこどもの臓器を他国のこどもに提供することへの批判が移植実施国でみられ、国際移植学会のイスタンブール宣言によって臓器売買・移植ツーリズムの禁止、自国での臓器移植の推進等が勧められたことから臓器移植法の改正へ大きく動くことになったと思われます。わが国では脳死を人の死とすることへの抵抗があり、十分な論議を尽くさないままに法律だけが制定されていった感がありますが、法改正後、1例ですが小児からの脳死下臓器提供が行われたことは記憶に新しいと思います。

当院も法改正によって全国のこども病院と同じく臓器提供施設になることができるようになりました。特に重症の救急患者を受け入れている当院では小児患者が脳死になれる可能性があり、もしそのようなご家族からお子さんの臓器提供の申し出があった時にそのご意思にお応えできないことがあってはならないと考えました。病院スタッフでも脳死を人の死と認めることに違和感を持つ人もあ

ります。逆に臓器移植を積極的に進めたい人もいます。個人の考え方は別にして、病院として法に定められた役割を遂行していくことが当院には求められているのです。本年6月には臓器提供のマニュアルも完成し、院内の体制も整いました。しかしながら虐待を受けたこどもからの臓器提供は認められず、虐待の有無を判断することや臓器提供した後のご家族へのサポートなど数多くの解決しなければならぬ問題も残ったままでの実施になります。私たちはこれからも臓器提供についての様々な問題点を検討し、解決を目指しながらの日々になりますが、皆さんもご家族の中で死について考える機会を持ってみられてはいかがでしょうか。



プロ野球選手がやってきた!

① 血液主体病棟 上坂 ひとみ

「阪神タイガースの選手が慰問にやってくる!」
うっとうしい梅雨空を切り裂くように、そのニュースが飛び込んできました。それも、今をときめく城島選手とマートン選手の2選手が…。

城島選手といえば、2004年、アテネオリンピックで4番打者を務め、銅メダル獲得。2006年から4年間はアメリカのメジャーリーグ「シアトルマリナーズ」に入団し、イチロー選手と共に活躍しました。昨年限入し、6番打者として活躍しましたが、今年右肘故障のため現在リハビリ中です。

一方マートン選手は、2003年メジャーリーグ入りし、5つの球団を経て、「その確実性のある打撃は日本向き」と評価され、阪神にスカウトされました。昨年、両リーグ通じての最多214安打を打ち、2年連続オールスターゲームに出場しました。今や、押しも押されぬ「ミスター阪神」です。

待ちに待った7月4日の午後1時。研修室ABに集まった子供たちやご家族の待つ中、二人が現れる

と会場がどよめきました。二人ともぞっかい!筋肉の盛り上がった背中や二の腕のせいか、実際より大きく見えました。保育士の司会進行のもと、ゲームやお絵かき、質問コーナーなど、楽しい1時間は瞬く間に過ぎました。その後、研修室まで来られなかった子供たちのために、全病棟を訪問していただき、行く先々で歓声が上がりました。病気に苦しむ子供・家族が喜ばれただけでなく、職員も一緒になって楽しめた効果は、慰問された二人の予測をはるかに超えていたに違いありません。そして、さらに嬉しかったことは、入院中の子供たち全員にプレゼントが配られたことです。(二人の直筆サイン入り帽子)この訪問で特に印象に残ったのは、城島選手が子供たちと握手を交わしながら言った「病気なんかには負けるな!」という力強い言葉と、二人のやさしい笑顔でした。





小児救急医療センターの紹介

救急集中治療科 科長 竹田 洋樹

当院では、これまで暫定的に実施してきました重篤な症例を対象とした三次救急医療を、より充実したものにするために、2007年10月より小児救急医療センターを開設いたしました。

生命に危険のある重篤な症例を集中治療するPICU(小児集中治療室)4ベッドと救急一般病床6ベッドがあり、搬送された症例を直ちに初期治療できる初療室を備えています。PICUと救急一般病床にはそれぞれ二床ずつ個室を設け陰圧室にすることにより感染症対応が可能です。

救急集中治療科は脳症・呼吸不全などの内科系

救急疾患だけではなく、交通外傷などの手術の必要な外科系疾患も当科を窓口にして各診療科が対応出来るようにしています。

2010年の診療実績は入院833名 外来1988名でした。

この小児救急医療センターは基本的に救急車で搬送されたり、各地域の医療機関から紹介されたりする重症の症例のみを対象にしています。当院の小児救急センターが果たすべき役割が、極めて重症の症例の救命であることをご理解いただきますようよろしくお願い申し上げます。



院内保育室を紹介します

総務部次長兼総務課長 長尾 洋

こども病院では、未就学児を養育している医師、看護師等の職員の負担を軽減し、勤務を続けやすくするために、院内保育室を設置しています。

病院入口脇にある八角形の独立した建物で年長児を保育し、30mほど離れた看護師宿舎1階の一部で年少児を保育しています。

職員であれば、職種を問わず、こどもを預けることができ、当院の優秀なスタッフの確保に貢献しています。



Concept

コンセプト

基本理念

周産期・小児医療の総合施設として、母とこどもの高度専門医療を通じて、親と地域社会と一体になってこどもたちの健やかな成長を目指します。



基本方針

1. 患者の権利を尊重した医療の実践
2. 安全・安心と信頼の医療の遂行
3. 高度に専門化されたチーム医療の推進
4. 地域の医療・保健・福祉・教育機関との連携
5. 親とこどもが一体となった治療の推進
6. こどもへの愛とまことに満ちた医療人の育成
7. 医療ボランティアとの協調による患者サービスの向上
8. 継続的な高度専門医療提供のための経営の効率化

編集後記

暑暑も過ぎ、虫の音がにぎやかになりました。食べ物がおいしい季節ですね。食欲の秋・感謝の秋・行楽の秋……。みなさんはどんな秋なんだろう？ そばに自然があるこども病院でも季節の移ろいを感じられることと思います。

「げんき力エル」では役立つ情報や楽しい話題をお届けできるようこれからも努力していきます。

朝夕冷え込む季節ですので体調管理に注意して楽しい秋をお過ごしください。

編集委員長：橋本ひとみ

編集委員：田中亮二郎 橋本美香子 竹井 朋子
松本 郁子 服部 真吾 赤松 規子
長尾 洋

本誌に関するご感想・ご希望・ご質問はこちらまで



兵庫県立こども病院

周産期医療センター 小児救急医療センター

〒654-0081 神戸市須磨区高倉台1丁目1-1

TEL 078-732-6961

FAX 078-735-0910(総務課)

FAX 078-732-6980(予約センター)

URL: <http://www.hyogo-kodomo-hosp.com/>

E-MAIL: info_kch@hp.pref.hyogo.jp